

平成31年度全国学力・学習状況調査が4月18日に実施され、大東市の全公立小学校の6年生988名、中学校の3年生932名が調査に参加しました。

調査内容は、国語及び算数・数学、英語（中学校のみ）による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取り組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の三つからなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童・生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的な生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

なお、本調査で測れるのは児童・生徒の学力の一側面です。

問教育研究所 ☎870・9107

小学校 学力調査の結果より

【国語】

「読むこと」の領域は、全国平均を下回っているもの、かなり近づきました。この領域の各問題の正答率は7割～8割を超えており、多くの児童ができています。一方、同音異義語で間違えやすい漢字の書き取りやことわざなどでは、全国との差が大きい問題もあり課題です。

【算数】

全体として全国平均に近づき、計算や立式などで全国を上回る正答率の問題もあります。「数量や図形についての知識・理解」は7割近い児童ができており、概ねできています。一方、記述式の問題は課題ですが、児童質問紙で「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」の解答を「すべての問題で最後まで書こうと努力した」と回答した児童が全国平均を上回っており、授業改善の成果を見ることができそうです。

中学校 学力調査の結果より

【国語】

例年、「自分の考えをもつ」「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」等が課題でしたが、正答率が7～8割となり改善されています。一方、封筒の宛先を書く問題は正答率が5割程度で、経験の少なさがうかがわれます。

【数学】

昨年度よりも改善がみられたのは、「図形」「資料の活用」の領域です。しかし、基礎的な問題や数学の専門用語の理解等に課題があります。無解答率の高い問題が少なくないことも課題です。

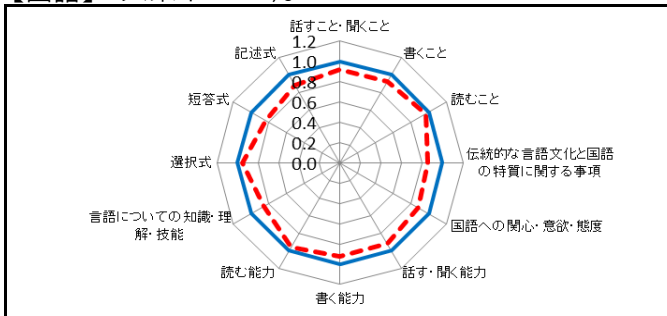
【英語】

英語の会話や文章を聞いたり読んだりして内容をとらえることは概ねできています。しかし、内容の大切な部分をとらえたり、英語で自分の考えを伝えたりすることには課題があります。

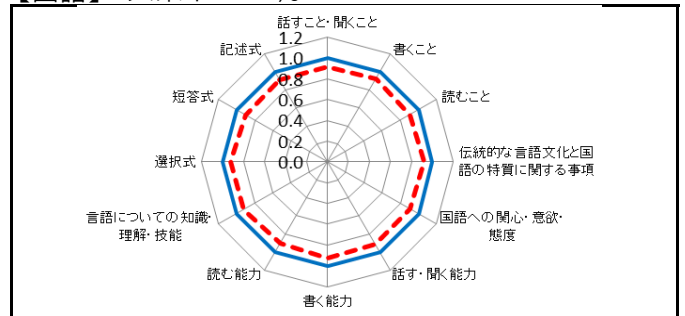
小学校 平均正答率

中学校 平均正答率

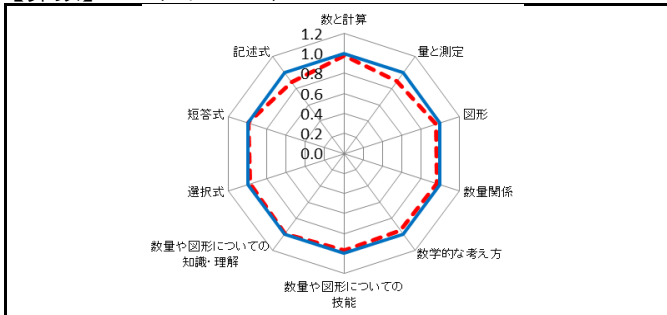
【国語】 大東市 58 %



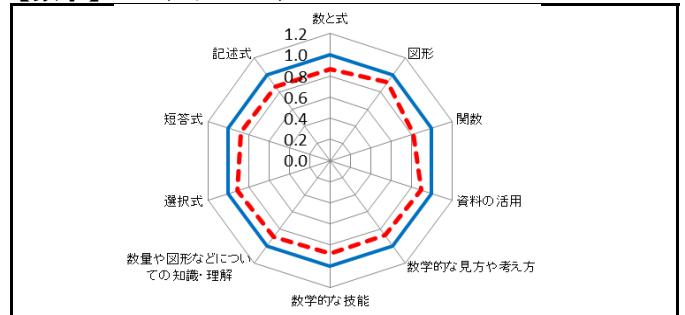
【国語】 大東市 67 %



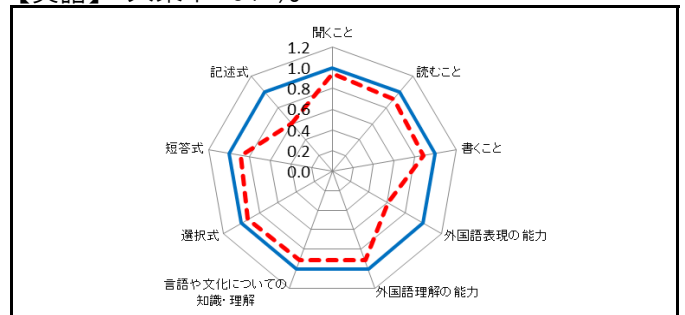
【算数】 大東市 64 %



【数学】 大東市 53 %



【英語】 大東市 51 %



大東市 .....  
 全国 ———